

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月15日作成)

小委員会名	建築・都市 VR・MR 小委員会	主 査 名：笹田 岳 就任年月：2023年 4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：下川雄一
設 置 期 間	2023年 4月 ～ 2025年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2019年から活動を開始した本小委員会はこの4年間、活動を継続してきた建築・都市 VR・MR に関する小委員会の活動を継承、発展させるものとして設置する。</p> <p>社会の発展や人々の安全・安心な暮らしを実現するために、最先端の情報通信技術の果たす役割はますます大きくなっている。</p> <p>「VR (仮想現実・人工現実) の強化」は、目標が達成可能となった場合には人類の生活水準に大きな向上をもたらす「今世紀中に達成すべき 14 の重点技術目標」のひとつに挙げられた (全米科学財団)。近年では、現実に近い三次元仮想空間をコンピューター上に構築する当初からの VR の進化に加えて、現実空間では視認できない情報を重ね合わせる AR (拡張現実)・MR (複合現実) や仮想除去を行う DR (隠消現実) など多様な発展が見られ、研究開発と実用化が進められている。</p> <p>建築・都市分野においても、VR 黎明期より研究が始められ、計画・設計・生産・運用の各シーンにおいて、VR・MR 技術が応用され始めている。さらに、BIM、IoT (モノのインターネット)、AI、シミュレーション等の技術と、VR・MR 技術との融合や化学反応が期待されている。</p> <p>そこで、最新の VR・MR 技術を建築・都市情報学に照らして網羅的・継続的に追求し、散在している状況を束ねると共に、研究者・実務者間で議論したり、課題を共有したり、より広く普及するような取り組みが求められる。そのため、建築・都市分野の VR・MR の技術探求と水平展開を目的として小委員会の設置を申請する。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会を定期的開催し、委員や外部講師による最先端 VR・MR 技術やその取り組みの話題提供、見学会を開催する。</li> <li>・ 情報・システム・利用・技術シンポジウム (以下、情報シンポ) 等において、研究集会または OS を開催する。</li> </ul> <p>2年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会を定期的開催し、委員や外部講師による最先端 VR・MR 技術やその取り組みの話題提供、見学会を開催する。</li> <li>・ 情報シンポ等において、研究集会または OS を開催する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：笹田 岳 (鹿島建設) 幹事：大西康伸 (熊本大学) 委員：安藤幸央 (エクサ)、上田 淳 (清水建設)、北本英里子 (神奈川工科大学)、倉田成人 (筑波技術大学)、酒谷粹将 (関東学院大学)、清水駿太 (フォーラムエイト)、灘 英樹 (境港市)、福田知弘 (大阪大学)、藤田真衣 (パナソニック)、松永直美 (レモン画翠)、満田衛資 (京都工芸繊維大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	—	
2023年度予算	270,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://aijisa.org/vr/">https://aijisa.org/vr/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)

<b>刊行物</b> <small>(シンポジウム資料等は除く)</small>	—
<b>講習会</b>	—
<b>催し物</b> <small>(シンポジウム・セミナー等)</small> <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small>	1. 第46回情報・システム・利用・技術シンポジウム ・小委員会企画OS「建築・都市分野のXR・メディア2023」 参加者39名（現地会場31名、オンライン8名） 『第46回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収
<b>大会研究集会</b>	—
<b>対外的意見表明・パブリックコメント等</b>	—
<b>目標の達成度</b> <small>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</small>	1. 情報シンポ2023でOSを開催し、講演発表4題を構成した。内、小委員会有志12名による共著論文を2編発表した。 2. 小委員会の開催は当初4回を予定していたが、日程の問題で1回の開催にとどまった。 3. セミナー開催を企画していたが実現に至らず。
<b>委員会活動の問題点・課題</b>	1. 若手の研究者・実務者・学生の参加しやすさの検討
<b>その他</b>	—